

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2016年11月10日

No.6

会社：現時点は昨年よりも厳しい状況である
組合：会社の考え方は論外！組合員の努力に応えよ！

～2016年度 年末手当第4回交渉報告～

中央本部は、本日第4回年末手当交渉を行い、年末手当に対する現時点の「会社の考え方」が明らかになりました。

- ①収入動向については農産品や紙パルプの不調により収入計画は未達である。引き続き収入確保に向けた施策をしっかりと取り組む。経費面についてもあらゆる部分で改善をはかる。
- ②上半期の中間決算は増収増益となり、社員の頑張りが現れたものであり、今も協力していただいていることに感謝申し上げる。厳しい状況にあるが鉄道事業部門の黒字化はあきらめない。
- ③貨物労組の主張や組合員の年末手当への期待を含めて社内で真摯に議論を行ったが、会社の現状を踏まえれば現時点では昨年の年末手当（1.48カ月）よりも厳しい判断をせざるを得ない。

これに対して中央本部は、以下の点を主張しました。

- ①交渉でも主張しているが、組合員の努力によって厳しい状況の中にありながら、大幅な収支改善がはかられている中で「厳しい」という会社が示した考え方は到底認められない。
- ②組合員は収入拡大に尽力しているが、経営陣の意識がコスト削減にばかり向いている。職場では輸送資材が不足している状況は改善されていない。経営陣に収入を確保するという意識が感じられない。
- ③組合員は日々努力を求められ結果も残している一方で、努力が報われないことに限界を感じている。これ以上組合員に何を求めようというのか。一方で会社に失望感を感じて若年退職する社員が止まらない。モチベーションを向上させるために言葉や書面ではなく、具体的な形で示すこと。
- ④貨物会社の将来を左右する時期であることを経営陣は改めて認識し、覚悟と決意をもって要求満額で応えること。コスト削減を年末手当に転嫁することは論外であり、再考を求める。

中央本部の指摘に対して会社は、

- ①10月期計画で収入見込みを大きく下方修正している。何としても計画を達成させなくてはならない。
- ②現場では要員不足を補っていただいていることは十分に理解している。しかし現時点では「厳しい状況」としか言えない。回答指定日まで時間がながい議論を積み重ね回答する。

組合員のみなさん！経営陣は、年末手当査定期間である上期を黒字達成したにも拘らず、「昨年よりも厳しいと言わざるを得ない」と無責任な対応に終始しています。交渉経緯を踏まえ、これまでの苦勞に報いる回答を示さないと納得できません。会社が組合員に対して責任を果たす時です。

本日以降、山場の闘いに突入しました。11月15日は全国統一集会日です。全組合員が結集し、一丸となって安全問題をはじめ欠員対策、増収施策、災害対応に汗を流してきました。この苦勞に報いさせるために低額回答に対する“怒り”を会社経営陣に突き付けようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

回答指定日は11月18日（金）です。